

# 大牟田市立天の原小学校

## 1 本校のESDの特徴

本校は、大牟田市の南東部の高台に位置し、木々に囲まれ野鳥が多く生息しているとともに校区を諏訪川の支流である野間川が流れており、自然環境が豊かである。また、校区内に大牟田特別支援学校や福祉施設「ケアハウス やぶつばき」があることから、環境教育と福祉教育の2本立てで生活科と総合的な学習の時間を中心に他教科等と関連付けて構成している。

海洋教育推進モデル校となってからは、環境教育の中核に海洋教育を据え取り組んでいる。

## 2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

本校教育目標「志を持って、自ら学び、心身を鍛え、人間性豊かな子どもを育てる」を達成するために、「将来にわたって、持続可能な社会を構築するために一人一人が地域の人々や環境と深いつながりがあることを知り、身近な人々と環境を大切にする心情と実践力を育てる」とユネスコスクールの目標を定めて計画を立て、実践を重ねている。

重点目標として、「自然愛護」「資源の有限性・再利用」「環境汚染問題・環境保全」「身近な世界文化遺産の保全・保護」「人権意識」の5点と、学び方の育成に重きを置いて各学年の単元および学習活動を構成している。

海洋教育では、本校が諏訪川の中流域に位置することより、「森・川・海をつなぐ海洋教育」という立場・視点で活動を構成している。

また、福祉交流活動では、「ケアハウス やぶつばき」の訪問と大牟田特別支援学校小学部との交流や居住地交流、障がいのある方との交流、地域の高齢者との交流を行っている。

## 3 特徴的な活動事例

### (1) 海洋教育の取組

導入期となる3年生では、「海に親しむ」ことを目標に、有明海の海辺の生き物とのふれ合いを行っている。GT「有明海を学ぶ会」の方々より有明海の生き物を紹介して頂き、有明海での生き物探しを通して、有明海に親しみながら興味・関心を高めることができた。

4年生では、「海を知る」ことを目標に、世界遺産である三池港を見学し、三池港の成り立ちや役割について学んだ。また、海上清掃船「海輝」を見学し、有明海のゴミ問題を知ることによって、今後の活動に対する課題意識をもつことができた。

5年生では、川と海をつなげる観点から、校区に流れる諏訪川の支流「野間川」の環境調査を行った。

子どもたちは、GT（市役所の環境保全課）の方々と川に入り、生息する水中生物を捕獲して調べたり、上流と中流の水の透明度検査やCODパックテストをしたりして見通しの妥当性を追究していた。川の汚れが海の水質悪化につながることを認識し、地域への発信や自身の行動化の必要性を実感することができた。また、川・海と森をつなげる観点から、森林の役割についても学んだ。



【海岸の清掃活動】

6年生では、GT（市役所の環境業務課）の方々とともに、世界の環境問題である「地球温暖化」が大牟田市内及び有明海の自然や生態系へ与えている影響について調べた。その後、温暖化のメカニズムについて調べ、原因が自分たちの生活と密接につながっていることを再認識することができた。

最後に、市内岬町の塩性湿地へのフィールドワークを行い、干潟の絶滅危惧種の現状の様子を知り、地球温暖化に対する危機感をもつことができた。学習したことを他校とのテレビ会議やこどもサミットで交流することで、より環境保全への意識が高まり、校内での節電の呼びかけ活動を行ったり、地域のつどいや学習発表会の場で環境問題や自分たちができることを呼びかけたりした。



【テレビ会議】

## (2) 福祉（交流）教育の取組

3年生では、「みんなで遊ぼう交流」を特別支援学校で行った。総合的な学習の時間「障がいのある方の気持ちを知ろう（視覚・聴覚）」と関連させて取り組むことで、相手を尊重したり自分たちにできることを考えたりする意識が高まった。

5年生では、特別支援学校の友達を本校に招待して「なかよし交流」を行った。今までの交流の振り返りや、校内でのチャレンジ集会（児童ロング集会）での経験を活かして、障がいの有無にかかわらず、誰でも楽しめるゲームの内容や障害のある友達が困らないような道具やルールの工夫を考えることができた。



## 4 本年度の成果と課題

### ○成果

- ・海洋教育の取組を通して、有明海の干潟に生息する生物の多様性を実感するとともに、温暖化や海洋汚染による環境問題を知り、環境問題の実際や自分たちの生活の環境への影響を深く調べ、自分達にできることを考えて実行しようとする姿が見られ、多くの人々に情報を発信したいという意欲も高まった。
- ・特別支援学校小学部との交流や障がいのある方との交流により、自他の大きな違いも当たり前を受け止めることができるようになり、相手に対する思いやりを言葉や行動で表す姿が多く見られた。

### ○課題

- ・海洋教育では、他校との交流や情報発信の場が重要であるとする。交流の時期や回数、交流の持ち方についての事前の打ち合わせを密にし、学習内容の発信にとどまらず、お互いの内容を聞いての意見交換を充実させていく必要がある。
- ・特別支援学校との交流では、招待する側と招待される側とに分かれての交流になっている。招待される側は受け身の活動になるので、どちらの場合でも主体的な活動ができる場面を設定していく必要がある。